

【海匠地域】令和元年度 飼料用米多収品種現地実証展示ほ 成績の概要

1 展示の概要

設置場所	匠瑳市	品種	アキヒカリ
土性	砂質土	播種日	4月5日
播種量	160g/箱	移植日	5月6日(疎植)
幼穂形成期	6月18日	出穂期	7月18日
成熟期	8月24日	収穫日	8月25日

2 結果の概要(成熟期の調査結果と収量)

稈長	82.0cm	穂長	19.4cm
穂数	343本/m ²	倒伏程度	0.8
粗玄米重	660kg/10a	標準単収値	575kg/10a

3 多収に向けた栽培管理のポイント及びその取組実績

(1) ほ場の土づくりの実施

- ・堆肥種類：－
- ・施用量：－
- ・施用時期：－

(2) 多収品種に必要な量の施肥 ※推奨量は、ページ下の参考のとおりです

- ・基肥N量：10.0kg/10a ※肥料銘柄：スーパーらくだくん早生用
- ・追肥実施日：－
- ・追肥N量：－ ※肥料銘柄：－

(3) 冷害を避けるための適期の移植

- ・移植日(5月中旬を推奨)：5月6日

(4) 適切な栽植密度、植付本数で植え付ける

- ・栽植密度(55株/坪を推奨)：38.4株/坪
- ・植付本数(4～6本/株を推奨)：2.4本/株

4 考察等

ほ場の地力が高かったことにより、出穂以降も葉色が保たれ、栄養状態を適切に管理できたことにより、砂質土で疎植でも高い収量を得ることができた。

(参考) 多収品種に必要な施肥量

	アキヒカリ
基肥N量	9kg/10a(砂質土の場合)
穂肥N量	3kg/10a

※穂肥は、幼穂形成期(幼穂が1～2mmの時期)に施用します